

地域に点在して学ぶ視覚障害児・者への支援（1）

視覚障害児の合理的配慮の質・量を高めるための支援

企画者	中野 泰志（慶應義塾大学）・氏間 和仁（広島大学）
司会者	永井 伸幸（宮城教育大学）
話題提供者	氏間 和仁（広島大学） 山本 利和（大阪教育大学） 韓 星民（福岡教育大学）
指定討論者	田中 良広（帝京平成大学）

KEY WORDS: 通常の学級、配慮要求、合意形成

【企画趣旨】

平成 28 年 4 月 1 日から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が施行され、合理的配慮は急務の課題であるが、具体的な対策は十分とは言えない。視覚障害児・者の教育においては、視覚情報の利用が困難なため、教科書や教材の配慮から移動の支援に至るまで、高い専門性が必要である。また、幼稚園から職業教育まで多様な教育的ニーズがあることに加え、障害の程度によって配慮内容が異なるし、重複障害の割合も多いため、発達段階、障害の程度、ニーズ等に応じた広範な対応が必要である。しかし、視覚障害は稀少障害であり、地域に点在していることに加え、教員の人事異動等のため、専門性を維持することが困難である。特に、弱視特別支援学級や通常の学級で専門性の高い教員を確保することは困難である。これらの問題点を解決するために、我々の研究グループでは、JSPS 科研費（16H02072）の補助を受け、地域に点在している視覚障害児・者が十分な質・量の配慮を受けられるようにするための支援システムの構築を行った。本シンポジウムでは、本研究の取り組みを紹介するとともに、今後の展開の在り方について議論する。

【話題提供者の趣旨】

「合意形成支援ポータルサイトの構築と試験における合理的配慮支援ツールの紹介」

中野 泰志（慶應義塾大学）

本研究では、ICT 機器を効果的に活用し、1) 合意形成支援ポータルサイト (<http://psylab.hc.keio.ac.jp/kaken/RA/>) を構築した上で事例収集を行い、2) 配慮の提供を支援するツールを試作・評価し、3) 教員研修のためのカリキュラムとテキストを立案することで、視覚障害教育の質と担当教員の資質の向上を目指している。本報告では、構築した合意形成ポータルサイトの役割と内容を紹介する。また、相談に応じて試作した試験における合理的配慮支援ツールについて紹介する。

「配慮促進支援ツールの開発」

氏間 和仁（広島大学）

通常学校における合理的配慮を促進する上で欠かせないのが、実態把握のためのツールと支援を実施するためのツールである。機材や専門性の充実した盲学校とは異なり、通常学校では相当の困難が予想される。盲学校でのセンター的機能を利用するにも、都道府県に 1 校から数校しかない盲学校を利用することは、事実上困難なケースもあるだろう。そこで、本課題の解決に近づくべく、評価ツールと支援ツールの開発と公開を行った。評価ツールとしては、

「日用視野測定ツール」「日用視力測定ツール」「日用読書測定ツール」の 3 つのアプリを、支援ツールとしては「UD ブラウザ」を開発し公開している。これらの紹介を行う。

「合理的配慮としての歩行の指導」

山本 利和（大阪教育大学）

多くの視覚障がい者が仕事や勉強などの様々な場面で移動支援を求めている。この背景には視覚障がい者にとって自由に移動することが難しいという現実がある。そのための合理的配慮として移動支援サービスなどが実施されており、それは 3 つに分類できる。同行援護など移動支援が可能なサービスを提供すること、点字ブロックなどの移動しやすい環境を適切に提供すること、そして歩行指導など本人の移動能力を高める機会を提供することである。こうしたサービスにはそれぞれの特徴があり、その良さと問題点についてと、歩行訓練士の活動について紹介したい。

「韓国における電子教科書事情と合理的配慮」

韓 星民（福岡教育大学）

韓国の電子教科書事情は先進的事例として、しばしば日本に紹介されがらだが、現状を探るため、韓国特殊教育院（KNISE）・韓国盲人連合（KBU）・国立ソウル盲学校等を訪問した。その結果、日本における報道や学会などで紹介されているほど、電子教科書が普及していないことや、著作権の問題など解決すべき課題が残されていることが分かった。教科書会社からのデータ提供や電子教科書を表示するための汎用的ビューアの開発など、日本と共通した課題を抱えていることも浮き彫りとなった。これら調査結果から得られた現状分析と課題を中心に、日韓の合理的配慮について考察を深める。

【指定討論者の趣旨】

田中 良広（帝京平成大学）

合理的配慮の提供に当たっては、支援を必要としている本人や保護者が学校等へ申し出ることが提供の前提となっている。このことを踏まえれば、本シンポジウムで紹介する様々なツールやサービスに関する情報をどのようにして入手するのか、或いは如何にして各個人が必要している合理的配慮の内容を取捨選択できるかが、成否の鍵を握っていると言える。殊にこれらのツールやサービスを効果的に活用する事で、より質の高い学びを獲得することが期待できることから、効果的な周知の方法や活用方法等についても、周到に準備しておくという視点も含めて考えたい。

(NAKANO Yasushi, UJIMA Kazuhito, NAGAI Nobuyuki, YAMAMOTO Toshikazu, HAN SunMin, TANAKA Yoshihiro)